

南半球便り（その 26）：ロックダウン

8 月 17 日

恐れていたことが起きました。メルボルン、シドニー、ブリスベンといった主要都市に続いて、首都キャンベラがロックダウンに入ってしまったのです。

1. 運の尽き

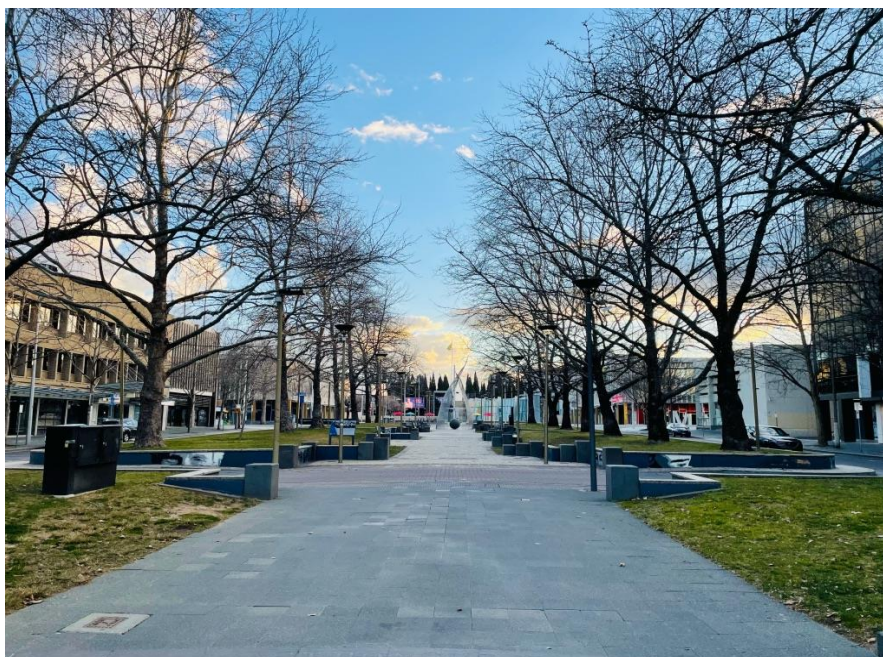
考えてみれば、昨年末の着任以来、私は幸せ者でした。豪州各地で感染者が発覚し多くの州や主要都市が次々とロックダウンになってきたにも拘わらず、妨げられることなく予定どおり出張を重ねることができてきたからです。

着任から半年で豪州全州を訪問できたことは、多くの人から「奇跡的」と称されました。その運も、ついに尽きてきた模様です。7 月に予定していたシドニー出張がシドニー帯のロックダウンのためにキャンセル。同様の事情により、8 月は木曜島、ケアンズ、メルボルンへの出張がキャンセル。コロナ禍の外交の難しさを痛感しています。

2. 「キャンベラよ、お前もか?!」

そこで当面は地方出張をあきらめてキャンベラ市内での活動に専念していました。ところが、急遽 12 日になってキャンベラ市内でも遂に感染者 1 名が発覚。同日夕方 5 時から一週間（その後、16 日に新たに感染者が 19 名確認されたことから、9 月 2 日まで合計三週間に延長）のロックダウンに突入することになってしまったのです。

赴任以来、多くの主要都市がロックダウンになる中、首都キャンベラは無事でした。人口密度が低い小都市で、人の流れが少なかったことも幸いしたのでしょう。ところが・・・キャンベラでも発生したとなると、事態は益々深刻です。



静まり返ったキャンベラ中心部

3. ロックダウンとは？

キャンベラが所在する豪州首都特別地域（ACT）で行われているロックダウンの下では、原則として住民は自宅待機となり、例外的に外出が認められるのは以下の場合のみ。外出の際はマスク必須となります。

- ・食料品、医薬品等、不可欠な物の買物
- ・コロナ検査、ワクチン接種を含む医療行為
- ・一日あたり一時間以内の屋外での運動
- ・不可欠な介護の提供
- ・リモートワークではできない、不可欠な仕事又は勉学

スーパーや病院は開いていますが、レストランは閉まり、テイクアウトしかできません。

4. 厳しい取り締まり

これだけでも、緊急事態宣言下でも渋谷ハチ公前交差点がごった返している日本と比べて厳しいことはお分かりいただけるでしょう。更に厳しいのが、実際の取り締まり。規制遵守を確保するために警察官が多数動員され、街を巡回しています。違反者には多額の罰金が科せられます。

豪州のマスコミ報道を見ても、「首相経験者が屋外運動中に誰何された。」、「政治家がマスクをしていなかったために罰金を払わされた。」、といった記事が散見されます。

また、僅か一件の発生であっても、当該感染者が赴き感染の恐れがある場所がすべてマスコミで報じられ、これらの場所に特定の時間帯に行ったことのある市民全員が検査を受けることが求められます。モグラ叩きのように、実に徹底した追跡調査と根絶の努力が払われるのです。

5. 大使館はどうなるの？

こういう質問をもたれる方も多いでしょう。大丈夫、閉めません。



コロナ対策を施した当館の領事部入り口

というのも、上記３．の「不可欠な（essential）仕事」に当たるとされて、大使館員の登庁は例外的に認められているからです。特に、パスポートの発給・更新業務や出生届の受付などの領事業務は、在留邦人の方々の便宜のためにも、切れ目無く行う必要があります。

ただし、大使館としても、ACT 域内での危機意識の高まりをきちんと踏まえた協力をする必要があります。そこで、館員を２チームに分け、隔日で出勤（出勤者以外は、テレワーク）することにしています。

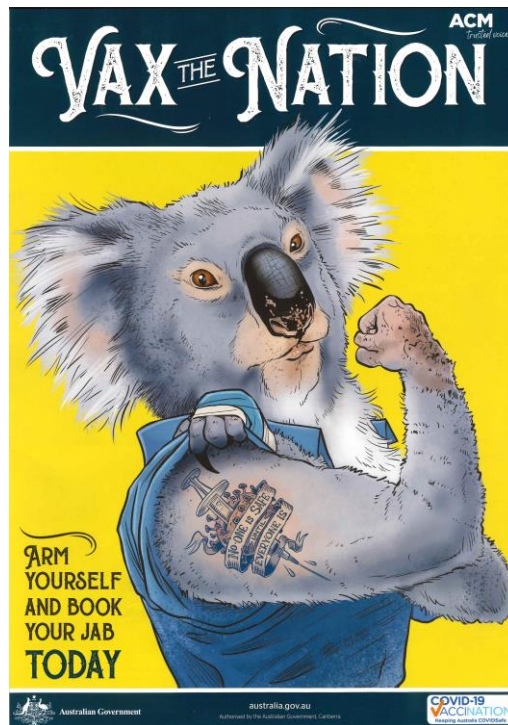


私も隔日で出勤とテレワーク

6. 早期収拾への祈り

いずれにせよ、一刻も早く事態が収拾し、外交活動を通常に再開できるようになることを強く期待しています。

幸いにも、早期収拾の頼みの綱となるコロナワクチンの接種展開は、日を追うごとに拡大してきています。豪州首都特別地域（ACT）では、接種対象者の３人に１人が２回分をすでに接種、２人に１人は少なくとも１回の接種を終えています（50歳以上に至っては実に85%以上が少なくとも１回接種）。今回のロックダウンを契機にさらなるスピードアップが期待されます。



豪州政府のワクチン接種を促すポスター

ロックダウンが解除され、環境が整い次第、大使館主催のイベントも再開していく予定です。その意味でも、着任以来豪州人にプレゼントされて溜まっていた書籍に目を走らせ、豪州の歴史や社会への学びを深めながら、祈り続けています。

山上信吾